



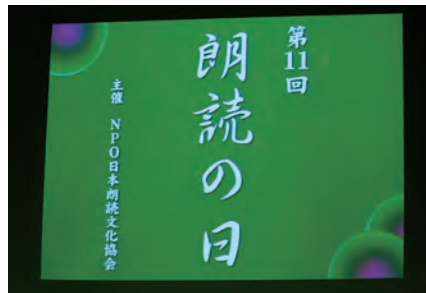
NPO日本朗読文化協会

朗読ニュース

2013年夏号



“声あそび”



全ステージ無事終了

第十二回 「朗読の日」



『花もて語れ』より「やまなし」



六華仙「小説智恵子抄」

朗読の日



司会 飯島晶子



『平家物語の女性達』①



フィナーレ



鳥羽さち子



深澤真理子



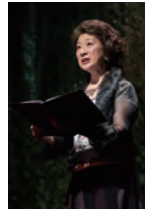
羽村郁子



小泉幸子



浅霧ひとみ



田中邦子



池田美智恵



伊吹よし子



白田敦子



『花もて語れ』より「ごん狐」



オリオン「金子みすゞの世界」



Aステージ



フィナーレ



加賀美幸子



『3行ラブレター』



Bステージ



『平家物語の女性達』②



『花もて語れ』より「野ばら」



アダムスシスターズ「文字禍」



司会 宮崎弥生



橋本英子



土屋久美子



青木ひろこ



永井喜代子



葛城てる子



山崎巖



吉田周子

《日 時》平成 25 (2013) 年 6 月 27 日(木)午後 3 時～ 4 時
《場 所》港区赤坂区民センター
東京都港区赤坂 4-18-13 赤坂コミュニティぷらざ内
《議 長》城所ひとみ

《議事録署名人》早川とし子、田中邦子

総会に先立ち、城所理事長より、先に開催された第 11 回「朗読の日」が、入場者数多数、成功裏に終了した旨報告され、関係者並びに会員のご尽力に対して感謝の意が表された。定刻に至り司会が開会を宣し、本日の総会出席者数は、正会員数 137 名 出席者数 95 名(内当日出席者 23 名、委任状 72 名)により、総会は定数を満たしたので有効に成立した旨報告された。

《議 題》

第 1 号議案 議長選出の件、互選により城所ひとみ氏が議長に選出された。

第 2 号議案 議事録署名人選出の件、議事録署名人として早川とし子氏および田中邦子氏が選出された。

第 3 号議案 役員選任の件、運営委員長、阿部侗奈の理事新任について、議長より提案され、全会一致で承認可決された。尚、被選任者は何れもその就任を承諾した。

《平成 25 年度役員(理事・監事)》

理事

阿部 侗奈(運営委員長) / 天沼澄夫(朗読プロデューサー) / 有賀康子(朗読家) / 飯島晶子(朗読家) / 飯田輝雄(演出家) / 城所ひとみ(港区環境影響審査員) / 松野正義(㈱インターナショナル・カルチャー) / 茂木英治(㈱テレビ朝日・社友)

監事

伊澤逸平(元㈱八重洲ブックセンター)

第 4 号議案 2012(平成 24) 年度事業報告書並びに収支決算書承認の件(総会資料 2 参照)

山田事務局長より配布済み資料をもとに平成 24 年度収支決算報告がなされ、引き続き、伊澤監事より 5 月 17 日付け下記監査報告書を受領済であることが報告された。「私は、平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日までの第 12 回会計年度における会計監査を行い、次のとおり報告いたします。1. 監査の方法の概要会計監査について、会計帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて財務諸表及び収支計算書の正当性を検討致しました。2. 監査の結果、貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録並びに収支計算書は、会計帳簿の記載と一致し、NPO 日本朗読文化協会の財政状態、正味財産増減及び収支の状況を正しく示しているものと認めます。」その後、2012(平成 24) 年度事業報告書並びに収支決算書は全会一致で承認可決された。

第 5 号議案 2013(平成 25) 年度事業計画案並びに収支予算案承認の件(総会資料 3 参照)

添付書類をもとに、下記事業計画及び収支予算について山田事務局長から説明がなされた。

第 11 回「朗読の日」公演・朗読教室・平和を考える集いおよびその他事業、平成 25 年度収支予算

平成 25 年度の収支予算は「朗読の日」収益の減少等により、収支 0 予算となる。事業計画(案)は下記 5 項目修正・追加しました。

2. 朗読教室

①加賀美講座《古典朗読インストラクター養成》=>《古典勉強会》

②河崎早春の朗読教室 5 回分 会員 4,000 円=>20,000 円
一般 4,500 円=>22,500 円

3. 朗読公演・朗読会

③(9)加賀美ワークショップ「朗読とは」7 月 9 日開催(追加)

④(10)飯島晶子教室朗読会 4 月 29 日「Spring has come」池袋(追加)

4. その他の活動

⑤(3)定款委員会(5 名)H25.1～月 1 回開催

来年の総会で定款改定を目指す(追加)

質疑応答の後、2013(平成 25) 年度事業計画案並びに収支予算案は、全会一致で承認可決された。議長より、以上をもって本日の議事を終了した旨を述べられ閉会した。

以上

成瀬芳一特別公演 2013 年 4 月 3 日

有吉佐和子原作「亀遊の死～ふるあめりかに袖はぬらさじ～」川口松太郎原作「鶴八鶴次郎」の 2 作品に各 6 名ずつ出演。昼夜 2 公演で計 330 席の集客を目標としたが、結果的に深川江戸資料館小劇場へ 388 名ご来場下さった。最後の 1 ヶ月で皆の熱意と集中力が一気に高まったことで、集客力も朗読力も一層の成果があったと思われる。その一ヶ月は連日稽古という日も続き、大変ではあったがそれだけ充実していた。公演という本番があつての練習がいかに大きい意味を持つかを実感できた。協会として、このようなプロジェクトが定着し、多くの会員が経験できることを期待したい。(坂本有子)



第 76 回 八重洲朗読会 6 月 29 日



第 9 回 ヒルズ・サロン朗読会 5 月 16 日



Cステージ



VoiceK「吾輩は猫である」



『花もて語れ』より「やまなし」



『平家物語の女性達』③



司会 安倍眞壽美



松島邦



古内恵美子



岩瀬弥永子



フィナーレ



稲葉慶子



市原タツ子



照井恒衛



長野淳子



Dステージ



司会 長野淳子



六華仙「小説智恵子抄」



「被災地の聞き書き 101」



小川弘子



みこと佑



内堀芳江



『花もて語れ』より「花さき山」



「藪の中」



黒川公代



川合正美



中村悦子



『平家物語の女性達』④



フィナーレ



舞台裏



『朗読の日』ご挨拶

新たな一歩という気持で迎えた第 11 回「朗読の日」。これまでよりも一層、朗読をする楽しみ、聞く楽しみを多くの方々を知って頂き、朗読の普及に少しでも役立つような公演を目指してまいりました。



阿部侗奈

会員の皆様のご協力により、無事、終わることができましたこと、心より感謝申し上げます。来場者数 1,122 名、チケットぴあや当日売りのチケットも 100 枚を越えました。新しい演出や初舞台の方も多く、不安もありましたが、ご来場のお客様には好評だったこと、嬉しく思っています。第 12 回は更に改革を加え、進化させた公演になることを願っております。

第 11 回「朗読の日」お疲れさまでした。公演終了後のアンケート（モニター）の中に、「朗読会」自体が初めてというお客様が「予想以上に楽しかった」と感想を述べてくれたのが嬉しかった、という声がありました。私にとってこれは最高！に嬉しかったです。今回はあくまでも、聞き手も楽しめる舞台作りを目指しました。「朗読とは・・・」と難しい考えをお持ちの方にとっては「???」だったかもしれません。でも朗読の普及には、まず皆が楽しめることが原点だと思っています。作品選考、台本作り、作品作り（練習）に快く協力していただいた方々に心から感謝しています。これからの「朗読」の世界に、少しでも新しい風を吹き込めればと思っています。皆さまのご協力ありがとうございました。



飯田輝雄

初出演を終えて

朗読とは何ぞや。数年前に朗読公演のご依頼をいただき改めて考えさせられました。台本を持つという制約と舞台装置をほとんど使わないこの形式は、無限の可能性を持つと同時に全く何も起きないという恐怖が隣合せて存在しています。芸術に正解はない。キレイに読めば良いわけでもない。が、どうやら正解らしいものはある、という曖昧で確かな現実を目の前にして、しかし確実に朗読人口が増えている昨今。学ぶことはたくさんあります。



西村剛市

ご来場下さいましたお客様、支えて下さいましたスタッフの皆様、共演者の皆様にご心より感謝申し上げます。プロの方々によりショーアップされた空間で表現出来る事や、沢山の皆様とご縁が出来る事が、「朗読の日」の公演の醍醐味だと感じました。同じ作品を何度も朗読していると、自分の細胞の一部に落ちていくような不思議な感覚を覚えます。より自分にとって深い物にするために、発表の機会は終わっても、その作品の稽古だけは続けていけたら・・・と考えています。



山崎巖

「平家物語」の「維盛の妻・北の方」を読ませていただきました。私の郷里、香川県高松市は栄華をきわめた平家一族が最期を迎えた場所です。これを読もうと決めたのは故郷への思いに導かれてのことでしょうか。西の海に吹く風に重なって聞こえ続けた北の方の悲しい声の響き、みじめであっても同情を禁じえない平家の女性たちの気持ちを自分らしく語ろう、そしてみんなと心をひとつにしようと、舞台ではその事だけを考えていました。



川口和代

3 年程前から目標にしてきた「朗読の日」の舞台初出演でした。舞台完成に向けての本読みや舞台裏スタッフの方々、協会皆様方の協力があった「朗読の日」であるということを感じ深く体験しました。初めての大舞台に緊張が増し責任も感じましたが、ステージ上では「元気を出して」という作品を表現する使命感に切り替わりました。有難うございました。協会の皆様・講師の先生・朗読同志の皆さんに支えられての現在に感謝しています。



みこと佑

「朗読」の意義を殆ど理解していない長年の友人に「私今度博品館での朗読会に出演する事になったの」と知らせたところ、ステージで本を読む貴女の姿を見たいと駆けつけてくれました。ただ声を出して読むだけと思っていた友人に感想を聞いたところ、声の響きや語り掛ける姿から、詩の表情が鮮明に理解できたとのことでした。これも演出家はじめ関係者のご尽力の賜物であり心より感謝申し上げます。



小泉幸子

「雪国」を朗読するにあたって作品を読み返し、改めて、川端康成の文章の求心力のようなものに圧倒されました。その求心力を損なわないようにして客席全体に展開するためには、よく通る声と集中力を保つことが大切だと思いました。ようやく終わりました。やれやれです。事前にご指導くださった方々、当日支えてくださった全ての方々に感謝しております。ありがとうございました。



橋本英子

作品を決めるとき飯田先生に「このソメコとオニは難しいですよ。どうしてもこれをやりたい？」といわれ「はい、これをお願いいたします。」と頂いた作品、私なりに奮起いたしました。ゲネプロのとき飯田先生に大分読み込んできたねと言われ、それが自信に…あこがれの舞台に立ちお客様を前にスポットライトを受け、気持ちよく出来たと思います。多くの方に「よかったよ」との言葉を頂き、全ての方に感謝し一歩一歩前進したいと思っています。



内堀芳江

若かりし頃舞台女優を夢見ていました。文章から性格や環境、考え方、好みや癖まで人物を創っていく過程はとても楽しいものでした。いま朗読と出会い、声の力で表現していく難しさを実感していますが、表現の組み立てはやはり楽しいと感じています。また声だけと思っていた朗読は、聞けば聞くほど身体全部、全身を使つての表現と思いはじめました。探す、読む、聞く。どれも楽しい。



川合正美

